

ログインユーザ：
春原 若菜

シラバス参照

科目名	フレッシュマンセミナー(薬学)B
配当年次	1年次
開講期間	後期
単位数	1
担当教員	一色 恭徳(イッシキ ヤスノリ) 井上 裕(イノウエ ユタカ) 内田 昌希(ウチダ マサキ) 大山 翠(オオヤマ ミドリ) 木村 聡一郎(キムラ ソウイチロウ) 木村 光利(キムラ ミツトシ) 高塚 人志(タカツカ ヒトシ) 間 祐太郎(ハザマ ユウタロウ) 畑中 朋美(ハタナカ トモミ) 武藤 香絵(ムトウ ミズエ) 上田 秀雄(ウエダ ヒデオ)
期間・曜日・時限・教室	後期 水曜日 3時限 22-404

※	
授業の目的・目標	目的:城西大学薬学部では、人々の主観的QOLを高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援できる人材育成を目指しており、薬学科では、将来、さまざまな医療者や介護・福祉スタッフと連携し、生活者に寄り添いながら地域社会に貢献できるようになることを目指します。フレッシュマンセミナー(薬学)Bでは、大学での学びの動機づけと将来の自身の活躍の場をイメージできるようになることを目的としています。 目標:本科目は薬学科の初年次教育科目として位置付けており、過去に起こった薬害や現在社会問題となっている薬物乱用などの諸問題、将来の活躍の場での薬剤師や薬学出身者への期待、患者やその家族の思い、QOL向上に対して様々な職種が連携することの重要性、連携に必要なコミュニケーションについて体験型学習を通じて学び、将来の自分自身の活躍する姿を想像したときに、薬学生として取り組むべき事柄について考え、実践するための動機付けに繋がることを目標としています。(知識・理解)(汎用的技能)(態度・志向性)
準備学習等の指示	基本的に、講演会とグループ討議を組み合わせた授業スタイルとしているため、正規の授業時間外も利用した変則的な実施形態になります。最初に配付するスケジュールをよく確認してください。実施回ごとのグループ分けなどを掲示またはwebclassを利用して伝えるので、自分自身で必ず確認してください。あらかじめ各自で調査することが必要な事柄についてwebclass等で指示することもあるので、予習として準備をするようにしてください。また、薬科学科および医療栄養学科の1年生との合同授業も開催します。自分の所属学科についてはもちろんですが、薬科学科と医療栄養学科の目指す教育や人材育成の考え方についても前もって調査し、合同授業でのグループ討議の際などに活発な意見交換ができるように準備をしてください。ヒューマンコミュニケーション授業で体験した内容は、日常の学生生活の中で実践するよう努めてください。
講義スケジュール	1 ヒューマンコミュニケーション・ユニット4-1 ・人間関係を構築するために自己を見つめなおす。 ・挨拶や自己紹介を再考する。 →A-(3)-①-1)、A-(3)-①-2)、A-(3)-①-3)、A-(3)-①-4)、A-(3)-①-5)、A-(3)-①-6)、A-(3)-①-7)、A-(3)-①-8)、A-(3)-①-9) 2 ヒューマンコミュニケーション・ユニット4-2 ・身だしなみや言葉づかいについて考える。 ・人間関係の構築における“ストローク(存在価値)”の大切さを理解できる。 ・ストロークに対して肯定的に作用する言葉と否定的に作用する言葉を理解する。 →A-(3)-①-1)、A-(3)-①-2)、A-(3)-①-3)、A-(3)-①-4)、A-(3)-①-5)、A-(3)-①-6)、A-(3)-①-7)、A-(3)-①-8)、A-(3)-①-9) 3 薬害など健康被害を受けた当事者の思いを理解できる。 →A(1)②6)、A(1)②7)、A(1)③1)、A(1)③3)、A(1)③4)、A(1)③6)、A(1)③7) 4 薬害など健康被害を受けた当事者の思いを踏まえ、薬害の根絶および薬による健康被害を最小化するためにどのような取り組みができるかを討議できる。 →A(1)①2)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②6)、A(1)②7)、A(1)③1)、A(1)③3)、A(1)③4)、A(1)③5)、A(1)③7)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)5) 5 薬物乱用に関する社会問題の概要を理解し、薬物乱用を防止するための啓蒙活動の主体を担う薬剤師の活動について討議できる。 →A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)5) 6 医療施設で活躍する薬剤師から、実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどについて理解できる。 →A(1)①4)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(1)③3)、A(1)③4)、A(1)③5)、A(4)5)、F(1)①1) 7 実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどに基づいて、患者や生活者の健康をサポートするための薬剤師の姿について討議できる。 →A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)①4)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(1)③3)、A(1)③4)、A(1)③5)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)5)、F(1)①1) 8 企業などで活躍する薬剤師および薬学出身者の講演を拝聴し、薬学出身者が幅広い分野で活躍できることを理解できる。 →A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②5)、A(1)②6)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)4)、A(4)5)、F(1)①1) 9 薬学出身者が幅広い分野で活躍できることを理解したうえで、その時点での職業人としての自分の将来像をイメージし、そのイメージについての理由付けを考えることができる。 →A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②5)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)4)、A(4)5)、F(1)①1) 10 重大な疾病を患っている患者さんおよびその治療に直接携わってきた医師の講演を拝聴し、患者やその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解できる。 →A(1)①4)、A(1)①6)、A(1)①7)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(2)①1)、A(2)①3)、A(2)③1)、A(3)②1)、A(3)②2)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)、F(1)①1) 11 重大な疾病を患っている患者さんやその家族の思いに寄り添うことの大切さを理解したうえで、医療人・薬剤師として患者やその家族の思いに

	寄り添うために必要なことは何かについて他の専門職を目指す学生とともに討議できる。 →A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)①4)、A(1)①6)、A(1)①7)、A(1)②1)、A(1)②2)、A(1)②3)、A(1)②6)、A(2)①1)、A(2)①3)、A(2)③1)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(3)②1)、A(3)②2)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)、F(1)①1) 12 ヒューマンコミュニケーション・ユニット5-1 ・聞き手の気持ちを考えて対話することができる。 ・話し手の気持ちを考えて対話することができる。 ・人との対話の中で情報の授受をする際に大切なことが何かを理解できる。 →A-(3)-①-1)、A-(3)-①-2)、A-(3)-①-3)、A-(3)-①-4)、A-(3)-①-5)、A-(3)-①-6)、A-(3)-①-7)、A-(3)-①-8)、A-(3)-①-9) 13 ヒューマンコミュニケーション・ユニット5-2 ・他者の気持ちを受容することの大切さを理解できる。 ・相手のために行動するとはどういうことかを理解できる。 →A-(3)-①-1)、A-(3)-①-2)、A-(3)-①-3)、A-(3)-①-4)、A-(3)-①-5)、A-(3)-①-6)、A-(3)-①-7)、A-(3)-①-8)、A-(3)-①-9) 14 医療や介護における”ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を理解できる。 →A(1)①4)、A(1)②6)、A(4)1)、A(4)2)、A(4)3)、A(5)①1) 15 医療や介護における”ヒューマンケア”の概念を理解し、患者や生活者のQOL向上のために、その考え方に基づいて専門職が連携することの重要性を踏まえ、生活者に寄り添った医療人としての連携の在り方を他の専門職を目指す学生とともに討議できる。 →A(1)①1)、A(1)①2)、A(1)①3)、A(1)②2)、A(1)①4)、A(1)②1)、A(1)②6)、A(3)①8)、A(3)①9)、A(4)1)、A(4)2)、A(4)3)、A(4)5)、A(5)①1)
教科書	必要に応じて資料等を配布する
参考文献	・IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携(中央法規) 埼玉県立大学編集 ・保健・医療・福祉のための専門職連携プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント(ミネルヴァ書房) 柴崎智美／米岡裕美／古屋牧子 編著
授業の方法	講演会、体験演習、グループ討議の形態で実施します。体験演習やグループ討議では、与えられたテーマについて自身で調査した資料、他者の発言、自分が感じ取ったことなどに基づいて議論を展開するアクティブラーニングとして実施します。
成績評価方法	授業への取り組み状況(60%)、課題提出物(40%)に基づいて総合的に評価します。形成的評価として、薬学科ホームページ記載の「薬学科のルーブリック評価」のうちルーブリック番号「1」「3」「4」「6」を使用します。
オフィスアワー	上田(水曜日17時～19時) 木村光(土曜日13時～15時(講義時間、会議時間を除く)) 井上裕(担当日の授業終了後) 木村聡(木曜日13時～19時(薬学実習による不在の場合あり)) 武藤(講義終了後) 間(水曜日17時～19時) ほか、授業を担当する教員のオフィスアワー
居室	上田(21-715) 井上裕(22-501) 木村光(21-620) 木村聡(21-712/718) 武藤(21-301) 間(21-712/718) ほか、授業を担当する教員の居室
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	